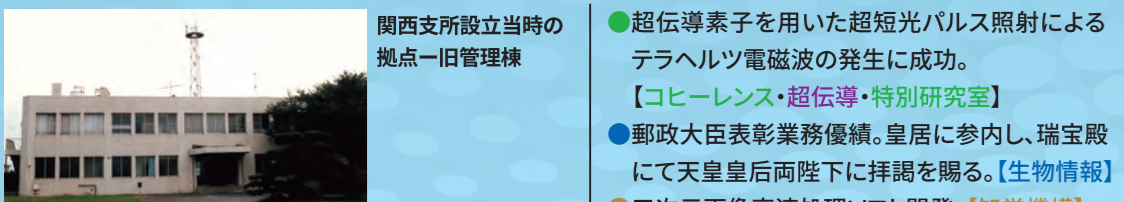


# 未来ICT研究所【30年のあゆみ】

Advanced ICT Research Institute

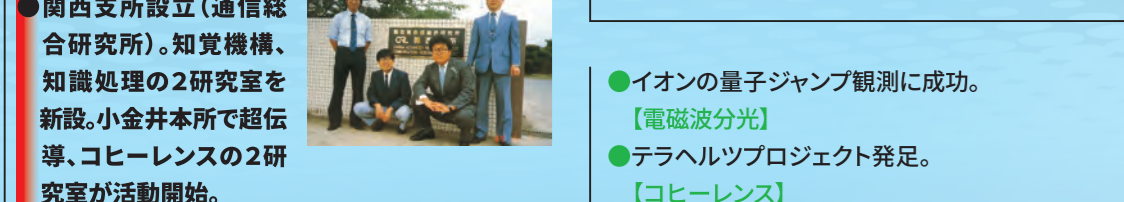
関西支所設立当時の拠点旧管理棟



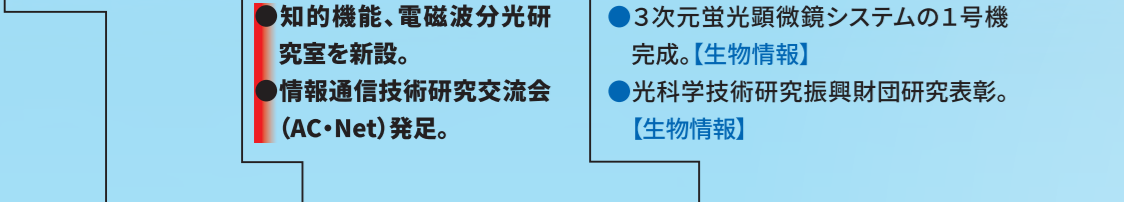
● 関西支所設立(通信総合研究所)。知覚機構、知識処理の2研究室を新設。小倉井本所で超伝導、コヒーレンスの2研究室が活動開始。



● 知的機能、電磁波分光研究室を新設。



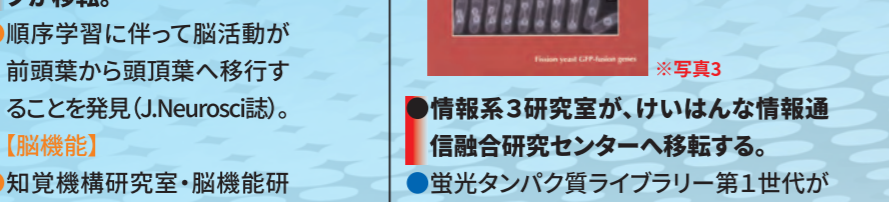
● 情報通信技術研究会(AC-Net)発足。



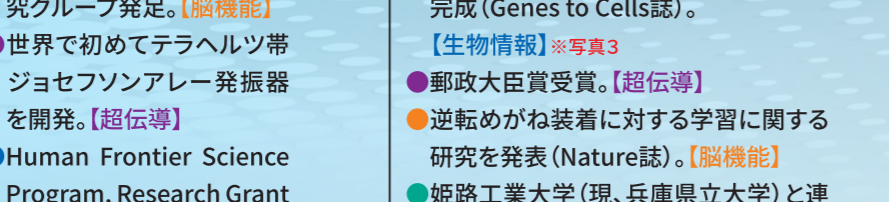
● 超伝導素子を用いた超短光パルス照射によるテラヘルツ電磁波の発生に成功。【コヒーレンス・超伝導・特別研究室】



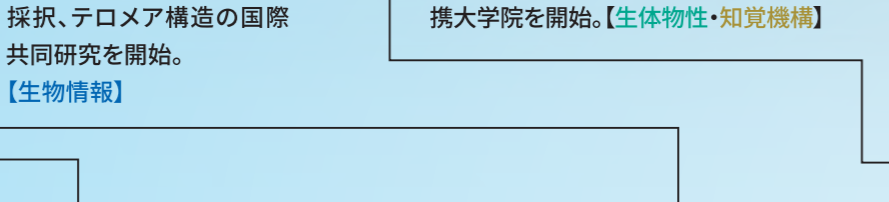
● 郵政大臣表彰業務優績。皇居に参内し、瑞宝殿にて天皇皇后両陛下に拝謁を賜る。【生物情報】



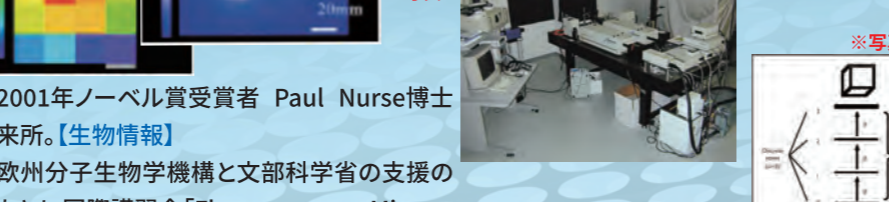
● 知覚機構研究室・脳機能研究グループが移転。



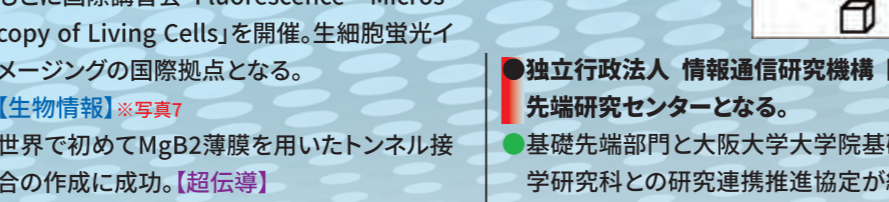
● 知的代理人モデルの提案。【知識処理】



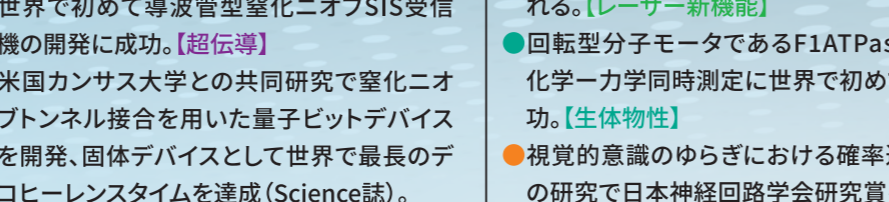
● 柳田結集型プロジェクト【脳機能】、西田結集型プロジェクト【情報系】を新設。



● 第三研究棟(脳機能研究棟)の竣工。脳機能研究グループが移転。



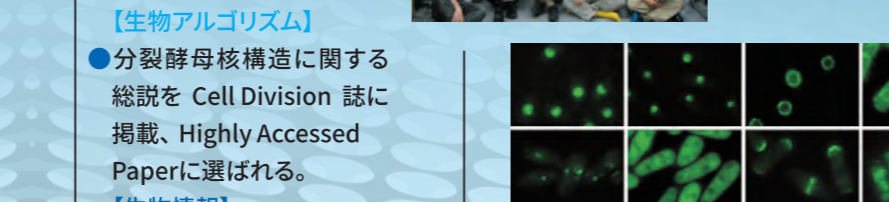
● 順序学習に伴って脳活動が前頭葉から頭頂葉へ移行することを発見(J.Neurosci)。



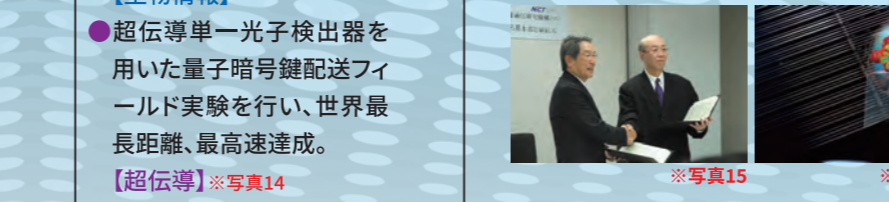
● 知覚機構研究室・脳機能研究グループ発足。【脳機能】



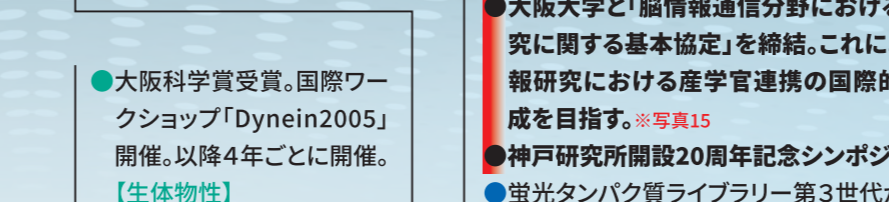
● 世界で初めてテラヘルツ帯ジョセフソンアレー発振器を開発。【超伝導】



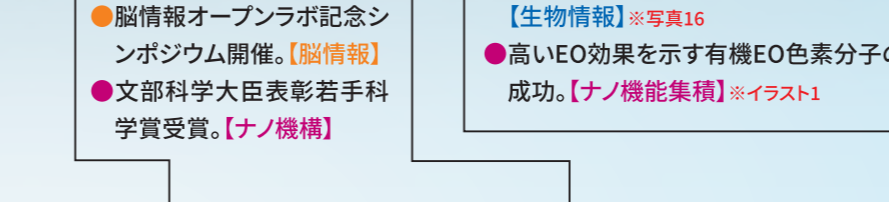
● 世界で初めてテラヘルツ帯ジョセフソンアレー発振器を開発。【超伝導】



● 世界で初めてテラヘルツ帯ジョセフソンアレー発振器を開発。【超伝導】



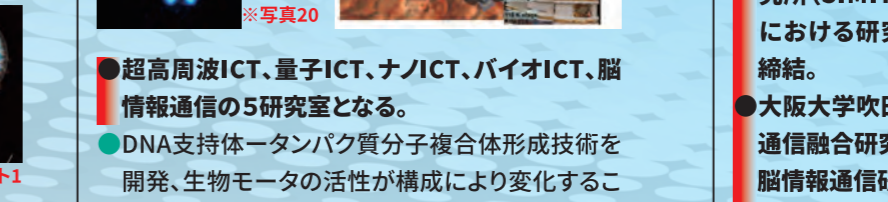
● 世界で初めてテラヘルツ帯ジョセフソンアレー発振器を開発。【超伝導】



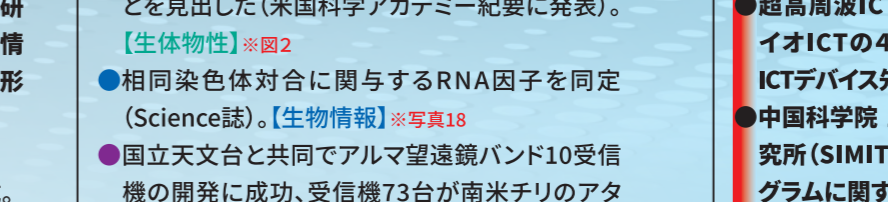
● 2001年ノーベル賞受賞者 Paul Nurse博士来所。【生物情報】



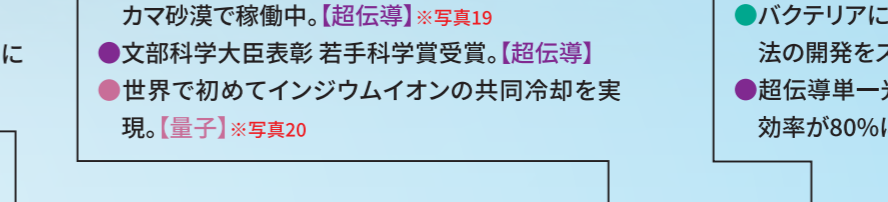
● 欧州分子生物学機構と文部科学省の支援のもとに国際講習会「Fluorescence Microscopy of Living Cells」を開催。生細胞蛍光イメージングの国際拠点となる。【生物情報】



● 世界で初めてMgB2薄膜を用いたトンネル接合の作成に成功。【超伝導】



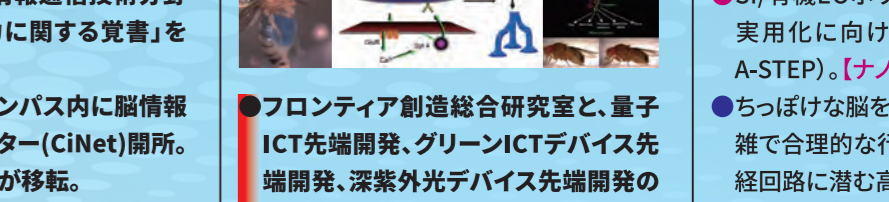
● 世界で初めて導波管型窒化ニオブSIS受信機の開発に成功。【超伝導】



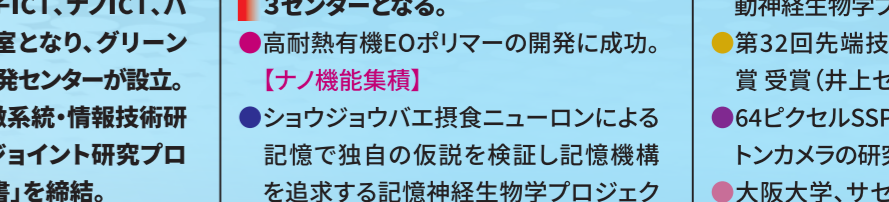
● 米国カンサス大学との共同研究で窒化ニオブトンネル接合を用いた量子ビットデバイスを開発。固体デバイスとして世界で最長のデコヒーレンスタイムを達成(Science誌)。【超伝導】



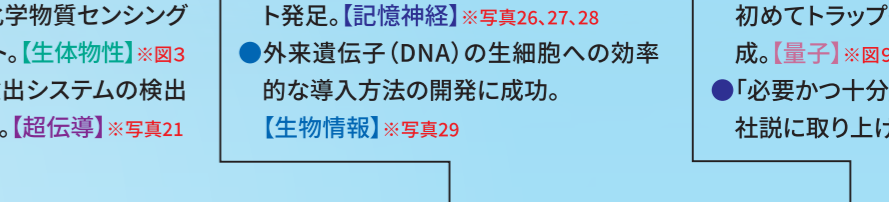
● 米国カンサス大学との共同研究で窒化ニオブトンネル接合を用いた量子ビットデバイスを開発。固体デバイスとして世界で最長のデコヒーレンスタイムを達成(Science誌)。【超伝導】



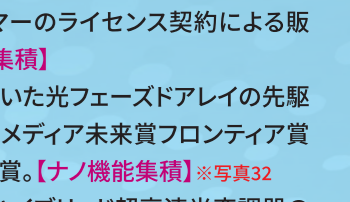
● 米国カンサス大学との共同研究で窒化ニオブトンネル接合を用いた量子ビットデバイスを開発。固体デバイスとして世界で最長のデコヒーレンスタイムを達成(Science誌)。【超伝導】



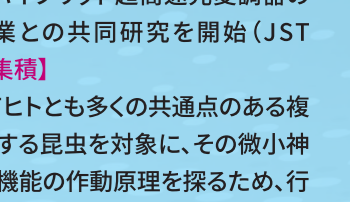
● 米国カンサス大学との共同研究で窒化ニオブトンネル接合を用いた量子ビットデバイスを開発。固体デバイスとして世界で最長のデコヒーレンスタイムを達成(Science誌)。【超伝導】



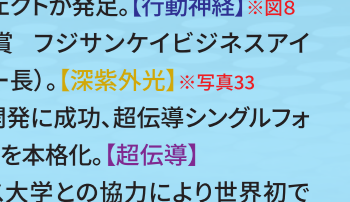
● 米国カンサス大学との共同研究で窒化ニオブトンネル接合を用いた量子ビットデバイスを開発。固体デバイスとして世界で最長のデコヒーレンスタイムを達成(Science誌)。【超伝導】



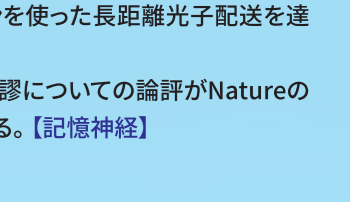
● 米国カンサス大学との共同研究で窒化ニオブトンネル接合を用いた量子ビットデバイスを開発。固体デバイスとして世界で最長のデコヒーレンスタイムを達成(Science誌)。【超伝導】



● 米国カンサス大学との共同研究で窒化ニオブトンネル接合を用いた量子ビットデバイスを開発。固体デバイスとして世界で最長のデコヒーレンスタイムを達成(Science誌)。【超伝導】



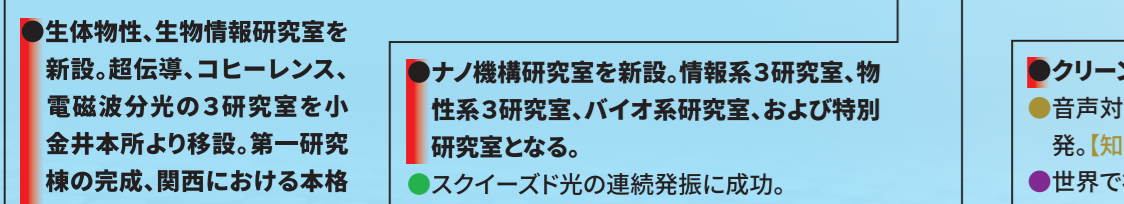
● 米国カンサス大学との共同研究で窒化ニオブトンネル接合を用いた量子ビットデバイスを開発。固体デバイスとして世界で最長のデコヒーレンスタイムを達成(Science誌)。【超伝導】



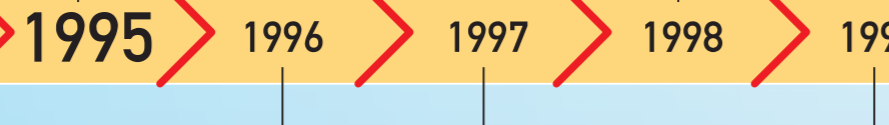
● 知的機能、電磁波分光研究室を新設。



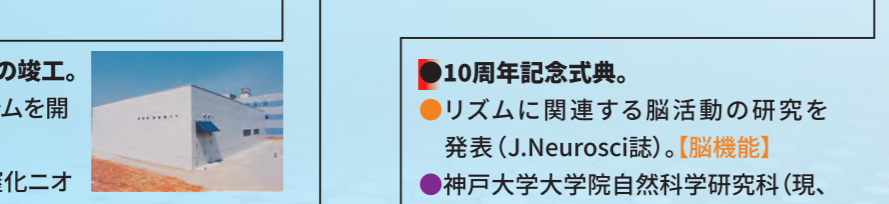
● 情報通信技術研究会(AC-Net)発足。



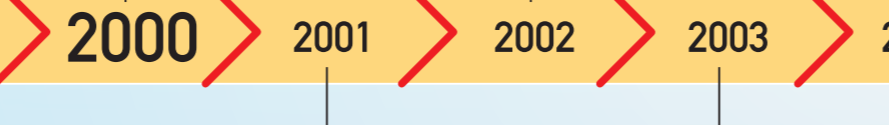
● イオンの量子ジャンプ観測に成功。【電磁波分光】



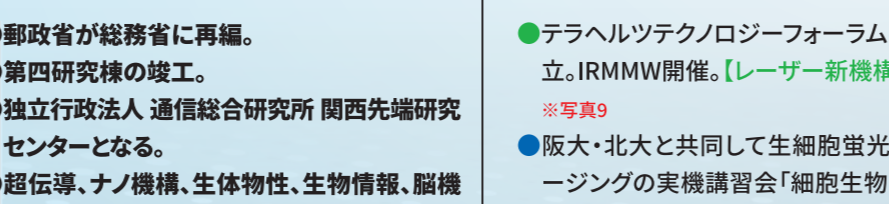
● テラヘルツプロジェクト発足。【コヒーレンス】



● 3次元蛍光顕微鏡システムの1号機完成。【生物情報】



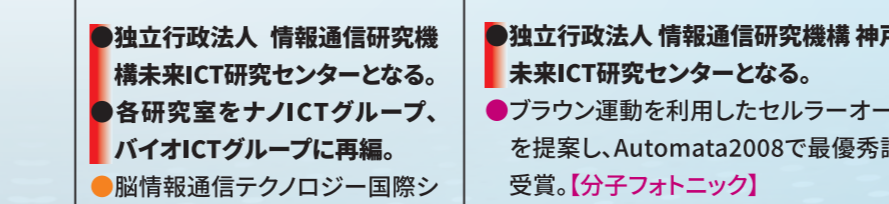
● 光科学技術研究振興財団研究表彰。【生物情報】



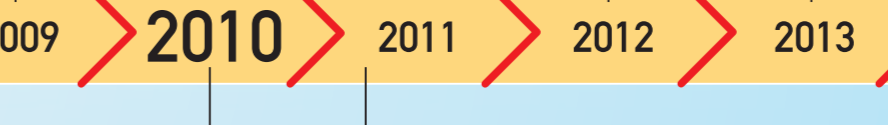
● 大阪科学賞受賞。国際ワークショップ「Dynein2005」開催。以降4年ごとに開催。【生物物性】



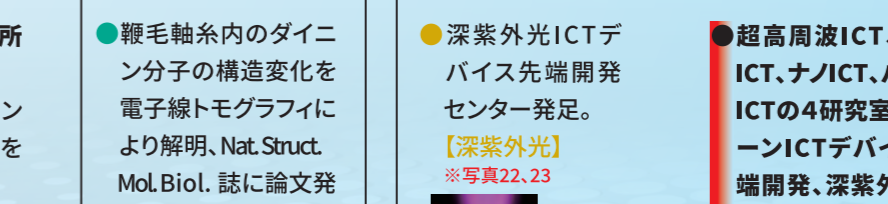
● 大阪科学賞受賞。国際ワークショップ「Dynein2005」開催。以降4年ごとに開催。【生物物性】




● 大阪科学賞受賞。国際ワークショップ「Dynein2005」開催。以降4年ごとに開催。【生物物性】



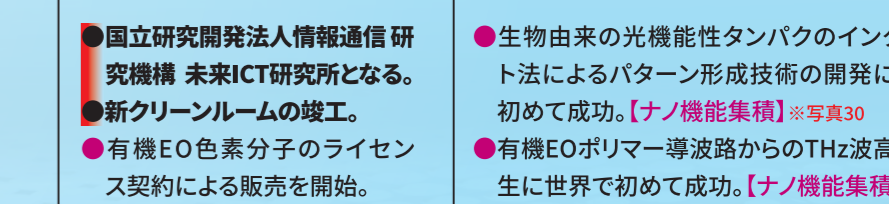
● 大阪科学賞受賞。国際ワークショップ「Dynein2005」開催。以降4年ごとに開催。【生物物性】



● 大阪科学賞受賞。国際ワークショップ「Dynein2005」開催。以降4年ごとに開催。【生物物性】



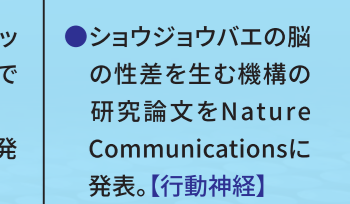
● 大阪科学賞受賞。国際ワークショップ「Dynein2005」開催。以降4年ごとに開催。【生物物性】



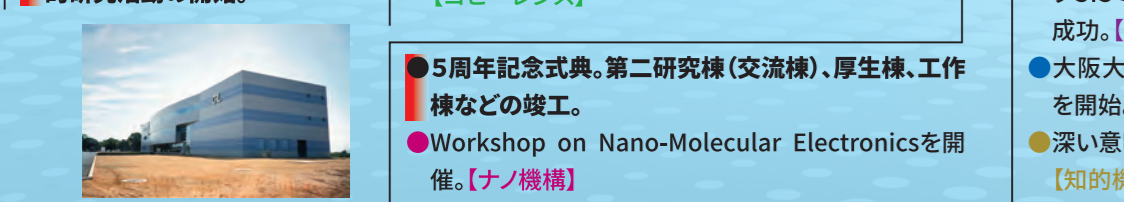
● 大阪科学賞受賞。国際ワークショップ「Dynein2005」開催。以降4年ごとに開催。【生物物性】



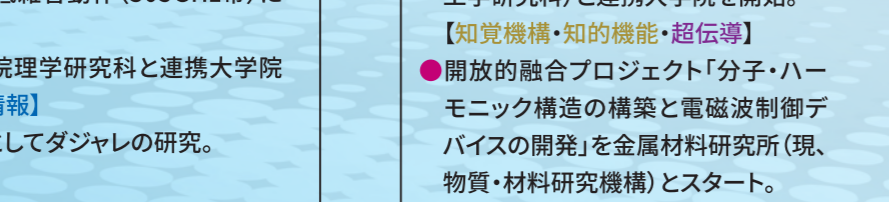
● 大阪科学賞受賞。国際ワークショップ「Dynein2005」開催。以降4年ごとに開催。【生物物性】



● 生物物性、生物情報研究室を新設。超伝導、コヒーレンス、電磁波分光の3研究室を小倉井本所より移設。第一研究棟の完成、関西における本格的な研究活動の開始。



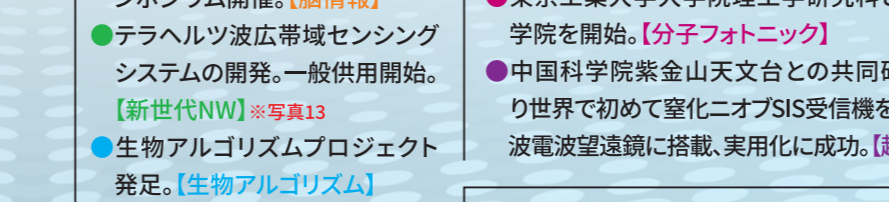
● ナノ機構研究室を新設。情報系3研究室、物性系3研究室、バイオ系研究室、および特別研究室となる。



● スクイズド光の連続発振に成功。【コヒーレンス】



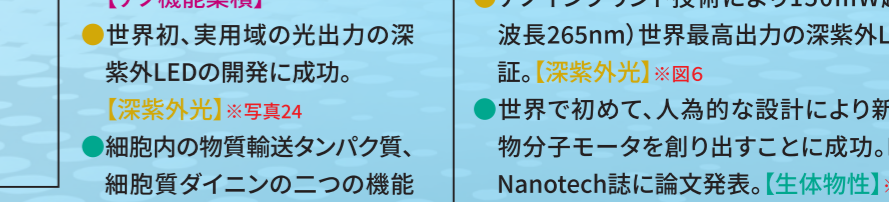
● 5周年記念式典。第二研究棟(交流棟)、厚生棟、工作棟などの竣工。



● Workshop on Nano-Molecular Electronicsを開催。【ナノ機構】



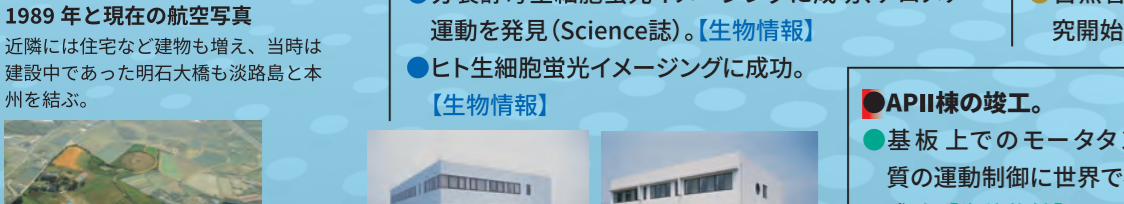
● 分裂酵母生細胞蛍光イメージングに成功。テロメア運動を発見(Science誌)。【生物情報】



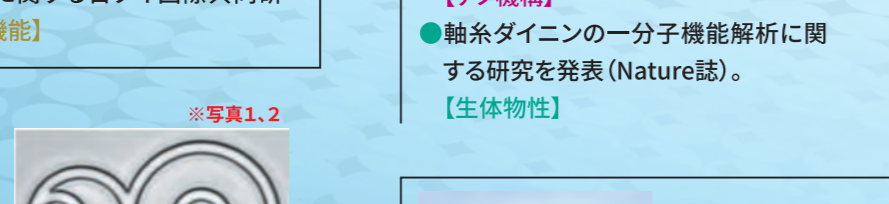
● ヒト生細胞蛍光イメージングに成功。【生物情報】



● クリーンルームの竣工。



● 音声対話システムを開発。【知識処理】



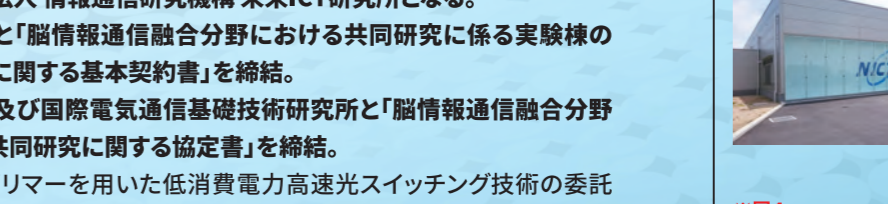
● 世界で初めて窒化ニオブSISミキサの低雑音動作(305GHz帯)に成功。【超伝導】



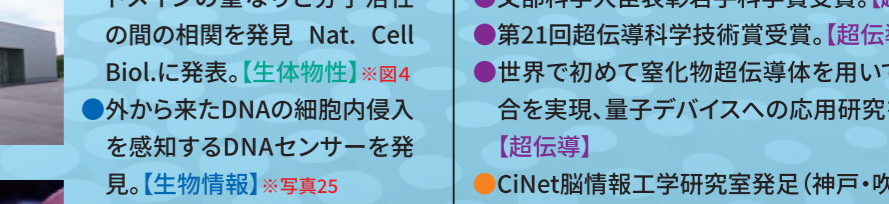
● 大阪大学大学院理学研究科と連携大学院を開始。【生物情報】



● 深い意味理解としてダジャレの研究。【知的機能】



● 自然言語処理に関する日タイ国際共同研究開始。【知的機能】



● 10周年記念式典。



● リズムに関連する脳活動の研究を発表(J.Neurosci)。



● 神戸大学大学院自然科学研究科(現、工学研究科)と連携大学院を開始。【生物情報】



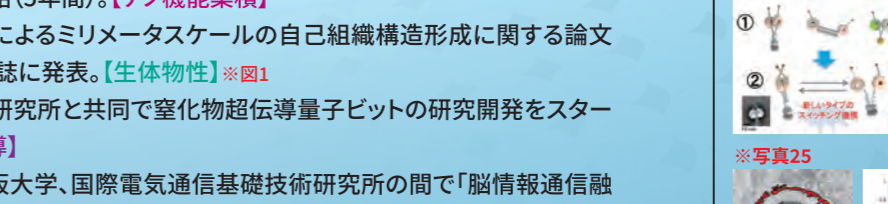
● 開放的融合プロジェクト「分子・ハーモニック構造の構築と電磁波制御デバイスの開発」を金属材料研究所(現、物質・材料研究機構)とスタート。【ナノ機構】



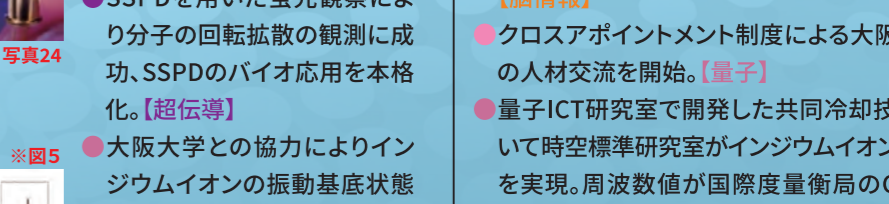
● 分子構造による自己組織化の制御とSTMによる可視化に成功(Nature誌)。【ナノ機構】



● 軸系ダイニンの一分子機能解析に関する研究を発表(Nature誌)。【生物物性】



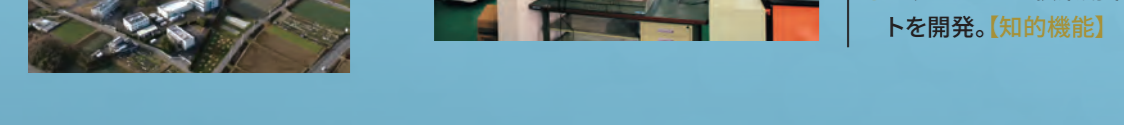
● 軸系ダイニンの電子顕微鏡単粒子解析に関する研究を発表。パワーストロークモデルを提案(Nature誌)。【生物物性】




● テラヘルツテクノロジーフォーラムを設立。IRMMW開催。【レーザー新機構】



● 阪大・北大と共同して生細胞蛍光イメージングの実機講習会「細胞生物学ワークショップ」を開始。【生物情報】



● フランスCNRS-Grenobleと有機分子エレクトロニクスに関する2国間共同研究を開始。【ナノ機構】



● 脳情報グループ発足。【脳情報】



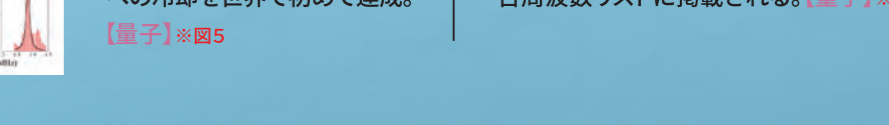
● 超伝導単一磁束量子回路を用いたネットワーク要素回路を開発。世界最速(45GHz)動作に成功。【超伝導】



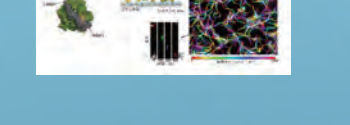
● 軸系ダイニンの電子顕微鏡単粒子解析に関する研究を発表。パワーストロークモデルを提案(Nature誌)。【生物物性】



● 軸系ダイニンの電子顕微鏡単粒子解析に関する研究を発表。パワーストロークモデルを提案(Nature誌)。【生物物性】



● 独立行政法人 情報通信研究機構 未来ICT研究センターとなる。



● 各研究室をナノICTグループ、バイオICTグループに再編。



● 脳情報通信テクノロジー国際シンポジウム開催。【脳情報】



● テラヘルツ広帯域帯域センシングシステムの開発。一般供用開始。【新世代NW】



● 生物アルゴリズムプロジェクト発足。【生物アルゴリズム】



● 分子通信テクノロジー国際シンポジウム開催。【生物物性】



● UCIと分子通信に関する共同研究開始。【生物物性】



● 独立行政法人 情報通信研究機構 未来ICT研究所となる。



● 大阪大学と「脳情報通信融合分野における共同研究に係る実験棟の管理運営に関する基本契約書」を締結。



● 大阪大学及び国際電気通信基礎技術研究所と「脳情報通信融合分野における共同研究に関する協定書」を締結。



● 有機EOポリマーを用いた低消費電力高速光スイッチング技術の委託研究を開始(5年間)。【ナノ機能集積】



● 生体分子によるミリメートルスケールの自己組織構造形成に関する論文をNature誌に発表。【生物物性】



● NEC基礎研究所と共同で窒化物超伝導素子の研究開発をスタート。【超伝導】



● NICT、大阪大学、国際電気通信基礎技術研究所の間で「脳情報通信融合分野における共同研究に関する協定書」を締結。【脳情報】



● 深紫外光ICTデバイス先端開発センター発足。【深紫外光】



● 深紫外光ICTデバイス先端開発センター発足。【深紫外光】



● 深紫外光ICTデバイス先端開発センター発足。【深紫外光】



● 深紫外光ICTデバイス先端開発センター発足。【深紫外光】



● 深紫外光ICTデバイス先端開発センター発足。【深紫外光】



● 深紫外光ICTデバイス先端開発センター発足。【深紫外光】



● 深紫外光ICTデバイス先端開発センター発足。【深紫外光】



● 深紫外光ICTデバイス先端開発センター発足。【深紫外光】



● 超高周波ICT、量子ICT、ナノICT、バイオICTの4研究室、グリーンICTデバイス先端開発センターが設立。



● 中国科学院 上海微系統・情報技術研究所(SIMIT)と「情報通信技術分野における研究協力に関する覚書」を締結。



● 超高周波ICT、量子ICT、ナノICT、バイオICTの4研究室、グリーンICTデバイス先端開発センターが設立。



● 中国科学院 上海微系統・情報技術研究所(SIMIT)と「情報通信技術分野における研究協力に関する覚書」を締結。



● 中国科学院 上海微系統・情報技術研究所(SIMIT)と「情報通信技術分野における研究協力に関する覚書」を締結。



● 中国科学院 上海微系統・情報技術研究所(SIMIT)と「情報通信技術分野における研究協力に関する覚書」を締結。



● 中国科学院 上海微系統・情報技術研究所(SIMIT)と「情報通信技術分野における研究協力に関する覚書」を締結。



● 中国科学院 上海微系統・情報技術研究所(SIMIT)と「情報通信技術分野における研究協力に関する覚書」を締結。



● 中国科学院 上海微系統・情報技術研究所(SIMIT)と「情報通信技術分野における研究協力に関する覚書」を締結。



● 中国科学院 上海微系統・情報技術研究所(SIMIT)と「情報通信技術分野における研究協力に関する覚書」を締結。



● 中国科学院 上海微系統・情報技術研究所(SIMIT)と「情報通信技術分野における研究協力に関する覚書」を締結。



● 中国科学院 上海微系統・情報技術研究所(SIMIT)と「情報通信技術分野における研究協力に関する覚書」を締結。



● 中国科学院 上海微系統・情報技術研究所(SIMIT)と「情報通信技術分野における研究協力に関する覚書」を締結。



● 中国科学院 上海微系統・情報技術研究所(SIMIT)と「情報通信技術分野における研究協力に関する覚書」を締結。

